

女の都っ子プラン

全国学力調査等から見た「女の都っ子」の特徴

△国語科では、「言語についての知識・理解・技能」は改善傾向にあるが、「書く能力」の落ち込みが顕著である。
 △「事実と意見を区別して書くこと」や「自分の考えとそれを支える理由を書くこと」など、「書く力」に課題がある。
 △算数科では、「数と計算」「図形」「数量関係」に課題があり、6年の「図形」領域の落ち込みが顕著である。
 △「図形」では、「図形の構成要素や性質を基に、立体図形と式とを関連付け、表現すること」、「数量関係」では、「折れ線グラフと棒グラフの値を読み取って考察すること」などに課題がある。

【達成目標】

全国学力調査、県学力テスト、市学力テストにおいて、それぞれ全国(※R2は県)、長崎県、長崎市平均点を上回る。
令和2年度は、6年国語においてのみ達成

【重点目標】

- ・「めあて」と「まとめ」の明示
- ・「書くこと」を意識した学習(根拠に基づいた表現)
- ・「授業づくりの視点」に沿った授業づくり・授業改善

学校教育目標 (めのと教育)

～自ら考え、主体的に判断し、行動する、心豊かで心身共にたくましい子どもの育成～

めざす子ども像

- めあてを立ててすすんで学ぶ子 (知)
- のぞみをもってたくましく生きる子 (体)
- ともだちとみがきあう思いやりのある子 (徳)

研究主題 ユニバーサルデザインの視点を基にした「わかる」・「できる」授業の創造

長崎市第4次総合計画 【長崎市教育振興計画】

- 1 心の教育の充実
- 2 確かな学力の向上
- 3 健やかな体の育成
- 4 信頼される学校づくりの推進
- 5 教育環境の充実

基礎基本の徹底 読む力の育成 学習意欲の向上など

基礎基本の徹底

- 当該学年の内容の定着
- ・書くことを意識した授業の展開を図る。
自分の考えを持たせるような授業を仕組み、根拠に基づいた表現ができるようにする。
- ・「言語についての知識・理解・技能」、「数と計算」の復習の重点化
- ・ペア・グループ学習の取組・ローマ字の習得
- ・マイ辞書運動の展開
- ICT機器の活用
- ・デジタル教科書・書画カメラ・ipadを毎日活用
- 学習規律の確立
- ・聞く・話すの重点指導
- ・筆箱、引き出し、持ち物の整理・整頓
- スキル教材の活用
- ・アシストシートの活用・あじさいワーク
- 日課の工夫～午前中5時間制の実施～
- ・個別指導の時間確保

思考力・表現力の育成

- 問題解決的・体験的な学習
- ・「めあて」を意識させ、学習活動を明確化する。
- ・「まとめ」を行い、本時の学習事項を押さえる。
- ・「ふりかえり」で、自己の学習を見取らせる。
- ・自分の考えを持つために、基礎を押さえる。考えを説明させるためにノートに書かせるなど段階的指導を行う。
- 校内研修の充実
- ・ユニバーサルデザイン授業
- ・主体的・対話的な学習の充実
- ・言語活動、情報教育の充実
- UDに基づく学習環境の整備
- ※「考えや心情を表す言葉」を児童の発達段階に応じて指導し、語彙を増やしていく。

学びを支える素地づくり

教育活動の充実

- 読書活動の充実
- ・朝読書、読み聞かせ、読書タイム、読書週間の取り組み
- 道徳科授業の充実
- ・実践力を培う授業の工夫
- ・考え議論する授業づくり
- 特別活動の充実
- ・学校行事、児童会、クラブ、委員会活動等の工夫と充実
- 掲示教育の充実
- JRCの理念に基づく活動の奨励
- 3UP(学力、礼儀・マナー、自主性・実践力)と「あ・は・は・も」運動の取り組み
- 支持的風土づくり
- くらしのきまりの徹底

指導体制の充実

- 校内支援委員会
- ・月1回の定例会による児童理解
- ・臨時会によるチームとしての支援体制
- あおば・あおぞら学級と交流学級との連携
- 巡回相談の活用
- 学習支援大学生の活用
- OSC、SSWの活用と各種専門機関との連携
- 地域の方を活用した学習支援体制(放課後子ども教室での学習)

家庭・地域との連携

家庭との協力 ～育友会スローガン 家族で考えよう 未来(あした)のためにできること

- 基本的な生活習慣づくりのサポート
- ・早寝、早起き、朝ごはん
- ・食育の啓発
- ・女の都すくすくカード
- メディア、SNS等についての親子のルールづくり
- 家庭学習の手引き(学年別取組内容の周知)

地域との協力 ～いつでも どこでも 笑顔で挨拶～

- 朝の立哨指導
- 地域行事への参加を奨励
- 学校教育活動への協力依頼、地域の自然・人材の活用
- ・集団下校・生活科、総合的な学習の時間
- 学習支援者、学校サポーター活用
- 育成協、子どもを守るネットワークとの連携